

『高品質トマトの生産振興』

ながいき
 < 長生トマトのブランド化に向けて >



【産地名 JA長生（千葉県）】

産地データ（H15年）

対象品目名	とまと
産地の名称	長生地区
作付面積	51ha
主要作付品種	麗容、ハウス桃太郎
作付農家戸数	195戸
生産量	5,120t/年間
出荷(販売)量	4,533t/年間
販売額	1,174百万円/年間
出荷(販売)先	東一東京青果市場 横浜丸中青果市場 (県内)茂原青果市場

1. 産地の概要と特徴及び課題

千葉県長生地区は、太平洋に面した千葉県のほぼ中央部で、都心から70km圏に位置します。比較的温暖な気候に恵まれ、水稲と野菜を組み合わせた複合経営が行われています。野菜は、冬春トマト、夏秋トマト、夏秋キュウリ、秋冬ねぎ、玉ねぎの4品目で指定産地を受けています。野菜の生産状況は、施設野菜ではトマト、キュウリ、メロンが栽培され、露地野菜では、ねぎ、玉ねぎを中心に様々な野菜が栽培されています。

施設野菜では後継者が確保され規模拡大が進んでおり、生産量の確保ができていますが、露地野菜では後継者が少なく農家の高齢化が進み、将来に不安を残しています。しかしながら、直売所等の小口生産に適した販売先の確保によって、女性や高齢者層の参入もあり、従来の市場中心の販売からの変化も見られています。

対象品目の作型（生育ステージ）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
抑制			○	△		□	×	×		□		
越冬					○	△	□					□
半促成							○	△			□	
×	×	×		□								
収穫(最盛)期												
							播種期		定植期			

2. 産地改革計画の概要

策定対象品目名	トマト	該当市町村名	茂原市、一宮町、長生村、白子町
策定年月	平成14年3月		
策定主体名	長生農業協同組合		

(1) 計画の全体概要(要旨)

輸入農産物に対抗するため、今まで以上に付加価値の高い高品質トマトの低コスト栽培を確立し、安定出荷することが消費者に選ばれる産地であり、生き残れる産地で

あるとの前提から、美味しいトマトの生産技術の向上と生産過程の履歴管理システム確立を目指しました。

(2) 具体的な目標

低コスト化タイプ 生産費に大きなウェイトを占める施設の減価償却費を低減させるため、低コスト耐候性ハウスのモデル導入、単収向上のための多収穫新品種の導入、労働時間短縮による生産費の低減などに取り組んでいます。

高付加価値化タイプ 高付加価値トマトの生産をはかるため、糖度の安定向上、A,B級の高品質トマトの生産比率の向上と、安全安心なトマトの生産出荷のため、栽培履歴の記帳と害虫忌避資材、技術の導入による減農薬栽培拡大への方向付けを行っています。

3. 産地改革計画の実行状況とその成果

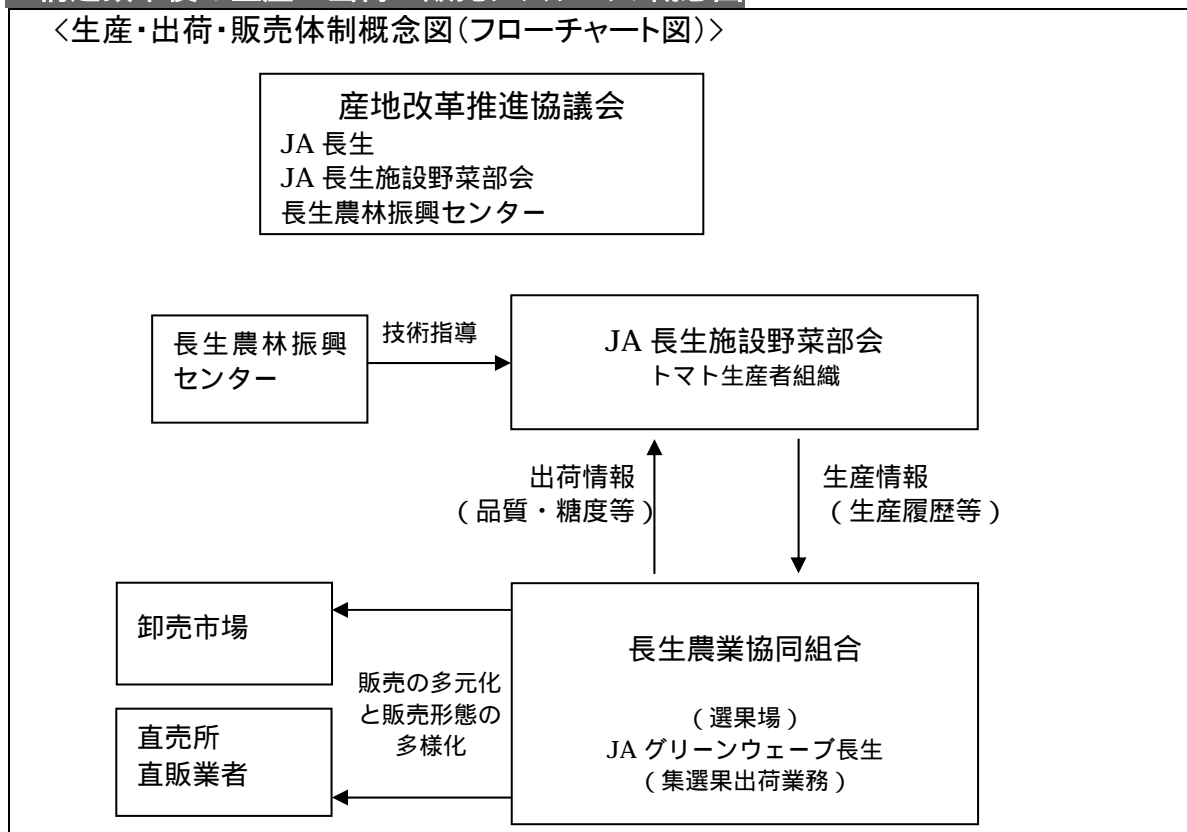
本事業にて建設した低コスト耐候性ハウス4棟をモデルとして規模拡大の取り組みを行っています。また多収穫品種の導入及び有望品種の栽培試験を実施し、収量、品質など多方面からの検討を行っています。労働時間の短縮については、購入苗の導入による育苗作業の合理化、養液栽培導入による作業時間の低減等を中心に推進しています。

高付加価値タイプへの取り組みについては、定期的に糖度調査を実施しそれに基づく栽培指導を行っています。また、安全安心なトマト生産のため、減農薬栽培への取り組みとして、面積の拡大などを推進しているほか、栽培履歴の記帳は全農家取り組み、それに基づく減農薬防除指針作成、情報開示への取り組みを進めています。

その結果、低コスト耐候性ハウスの導入により、後継者層の規模拡大意欲が高まり、事業導入によるハウス建設が進んでいます。栽培面では栽培履歴記帳をすることにより無駄な防除が少なくなり、黄色蛍光灯の導入、防虫網の設置、非散布型農薬、天敵利用の試験実施など、減農薬に向かって産地全体で機運が高まっています。

構造改革後の生産・出荷・販売システムの概念図

<生産・出荷・販売体制概念図(フローチャート図)>



産地改革に係る補助事業等の実施状況（平成14年度以降）

国庫補助事業

年度	事業名	事業主体名	事業内容	事業費	国庫補助金
14	輸入急増農産物対応特別対策事業	長生農協	低コスト耐候性ハウス（6,630㎡）	73.1百万円	34.8百万円
			産地改革推進事業	0.2百万円	0.1百万円
15	輸入急増農産物対応特別対策事業	長生農協	産地改革推進事業	0.2百万円	0.1百万円

（小数点2位以下切り捨て）

関連事業 なし

	事業（取組）名	事業主体名	事業（取組）内容	事業費	うち補助金
				（百万円）	（百万円）

4. 今後の課題と取り組み方向

現状の課題は、ここ数年、トマトの作柄が安定しない事で、第一の理由として近年の異常気象が上げられます。トマトのように長期にわたり栽培、収穫されるものはどこかで気象変動の影響を受ける可能性が高くなっている他、減農薬に向かっている中で、必要以上に農薬散布を控える事例が増えており、気象条件の不安定と相俟って、生産性が思った以上に上っていません。

また、新品種の導入も、より生産性の高い品種の導入が進みましたが、着色、食味等に問題があり再検討に入っており、既存の品種と合わせて栽培を進め、品種特性を生かした栽培方法を模索しています。

糖度等の品質向上策については、16年度事業にて選果機の機能向上を行い、内部品質センサーが導入され、一個一個の内部品質が判定できることから、今までのサンプル検査から精度が各段に向上し適切な指導が可能となります。

【特記事項】

産地改革・取組フォト



耐候性ハウス内のとまと



糖度調査風景



黄色蛍光灯での害虫防除



とまとの共選・共販

<県・問い合わせ先>

千葉県長生農林振興センター振興普及部地域振興課

担当係名(氏名) ...横田 陽生

住所：千葉県茂原市茂原1102-1

TEL：0475-22-6728

<農協・問い合わせ先>

長生農協 園芸指導部園芸指導課 グリーンウェーブ長生

担当係名(氏名) ...園芸指導課長 斎藤一成

住所：千葉県長生郡一宮町新地57の1

TEL：0475-42-7100